

私立大学研究ブランディング事業

平成29年度の進捗状況

学校法人番号	461003	学校法人名	志學館学園		
大学名	鹿兒島女子短期大学				
事業名	鹿兒島の食文化の継承と発展～「鹿女短 食育ステーション」構築事業～				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	940名
参画組織	南九州地域科学研究所、地域連携センター、博物館、図書館、児童教育学科、生活科学科、教養学科				
事業概要	鹿兒島県は温帯から亜熱帯まで南北600kmにも及び、各地に多様な食材や食習慣、郷土料理等の食文化が形成されている。本事業では、本学を鹿兒島の食文化・食育に関わる人・もの・情報が行き交う「食育ステーション」として、食育に関わる情報・技術の発信拠点とする。研究成果は、「鹿兒島の食アンバサダー」の輩出による食文化の継承と、健康的な食生活の情報提供や食育教材の開発・普及等により、鹿兒島の食文化の発展に寄与する。				
①事業目的	鹿兒島の食文化の調査・研究とそれに基づき、鹿兒島の食文化についての知識や技能を身につけた学生を「鹿兒島の食アンバサダー」として全学的に養成し、地域に輩出する。この「鹿兒島の食アンバサダー」を主体として、県内各地で食育活動を行うことにより、鹿兒島の食を通して「人」、「もの」、「情報」が、本学を「ステーション」として行き交うようになる。これにより、本学を「鹿女短 食育ステーション」として、鹿兒島県内の食育・食文化の情報と技術の発信拠点とし、鹿兒島の食文化を次世代に継承していくためのシステムを構築する。				
②29年度の実施目標及び実施計画	本学が「鹿女短 食育ステーション」として機能するために、平成29年度に行わなければならない最も重要なことは、平成30年度からの「鹿兒島の食アンバサダー」の養成に向けて、その養成のための要件を検討し、育成プログラムを作成することである。そのため、平成29年度の最重点目標を、「鹿兒島の食アンバサダー」育成プログラムの開発とする。 達成度の評価は、研究ブランディング部会を中心とした、各関連委員会での議論について記録された議事録が指標となるが、平成30年度から「鹿兒島の食アンバサダー」の育成を開始できること自体が、その一番の指標となる。				
③29年度の事業成果	29年度はブランディング活動の準備期間として位置づけ、本事業を推進する「ブランディング部会」の設置や、「鹿兒島の食アンバサダー」育成プログラムの開発を中心に取り組み、以下のような成果が上げられている。 ◆研究ブランディング部会においては、平成29年12月より毎月1回の会合を開催し、平成30年度より開始する「鹿兒島の食アンバサダー」認定のための要件を決定した。 ◆平成30年度「鹿女短 スマイル食育講座」の開催要綱を策定した。 ◆「鹿女短 スマイル食育プロジェクト」への、食物栄養学専攻以外の学生参加が可能な活動について、「鹿兒島の食アンバサダー」の認定要件の検討を行った。 ◆「鹿女短 スマイル食育プロジェクト」の「明治維新150周年薩摩の食・再発見プロジェクト」では、「学生が伝える郷土料理教室」(平成30年2月10日)を開催し、「鹿兒島の食アンバサダー」認定要件に向けた予行を行うとともに、課題の確認を行った。 ◆本学の同窓会組織である「すみれ会」と連携し、すみれ会講座として「かんたんおせち 初めてのかごしま郷土料理」を開催(平成29年12月27日)した。 ◆本事業に係る研究に関し、教員研究費や南九州地域科学研究所の研究費において傾斜配分を行うことにより、関連する研究の活性化を図ることとした。				
④29年度の自己点検・評価及び外部評価の結果	(自己点検・評価) ◆研究活動について 従前から食物栄養学専攻が取り組んできた「鹿女短スマイル食育プロジェクト」を本事業による研究活動の中心に位置づけ、予算措置を明確にしたことにより、研究活動がより活性化された。 ◆ブランディング活動について 29年度は、ブランディング部会の設置のほか、ブランディング活動に必要なHPの開設やパンフレットの作成などにより、ブランディング活動の実施体制が整備された。 ◆ブランディング事業全体について ブランディング部会の設置や関連予算の確保、ブランディング活動の実施体制の整備など、初年度の進捗状況としては、計画を上回る成果を上げていると判断する。				

	<p>(外部評価) 平成30年2月14日(水)に開催された「COC活動外部評価委員会」において、本事業が29年度「私立大学ブランディング事業」に採択されたことを報告し、事業全体の趣旨・目的及び事業概要並びに29年度の進捗状況について説明した。 外部委員から、「COC活動を含めた取組に対し、新たな活動にも積極的に取り組むなど、貴大学の特徴を生かした活動を展開していただけたらと思う。」、「これらの活動を多くの方に知ってもらうためにも、PR活動など情報発信に努力していただけたらと思う。」との評価があった。</p>
<p>⑤29年度の補助金の使用状況</p>	<p><研究費> ・食品の機能性を活かした加工品の開発、食文化の調査・研究等経費:800千円 <広報・普及費> ・ホームページ作成費:500千円、リーフレット印刷費:106千円 <その他> ・人件費377千円、事務費200千円 <合計> 1,983千円</p>